

今週（5月23日から5月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して落ち着いた展開となった。

無担保コールO/N物は、出し手サイドの旺盛な運用ニーズを背景に、▲0.045～▲0.01%近辺での出合いが中心となった。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、月曜から金曜まで▲0.02%前後の狭いレンジでの推移となった。

ターム物に関しては、1、2Wのショートターム物を中心に▲0.03～▲0.015%の出合いが散見された。

24日にオファーされた共通担保資金供給オペは、5,050億円の期落ちに対してほぼ横ばいとなる5,250億円の落札結果となった。また新型コロナオペアについては、69,228億円の期落ちに対して、制度融資分1,908億円、プロパー分1,075億円の落札結果となった。

日銀当座預金残高は、週を通して550兆円台で推移した。

●レポ市場

今週のGC T/Nの出合い水準は概ね▲0.115～▲0.080%程度であった。レート水準は週後半に掛けて徐々に上昇する展開となった。

SCはロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、24日に行われた6M物の入札結果が順調であった事や2年債と比較した割安感から、6M～1Y物で堅調に推移する展開となった。一方で、3M物は横ばいで推移した。

24日に実施された6M物の入札は強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーでは堅調に推移した。その後、GCレポレートの上昇等の要因もあり、27日に実施された3M物の入札は弱めの結果となり、結果発表後のセカンダリーでも軟調に推移した。

26日に実施された短国買入オペは、前回と同額の5,000億円でオファーされ、やや弱めの結果となった。

●CP市場

今週は、25日、31日の発行集中日があり、石油・小売・機械・鉄鋼等の複数業態で大型発行があった。週間総額は発行超となり、市場残高は26兆円台前半に達し高水準な状況が続いている。発行レートについては、日銀の適格担保銘柄は概ね浅いマイナスから0%近傍で決着している。一部では、期間の長いものに対して若干目線を上げる動きもみられた。

また、26日にはCP等買入オペが4,000億円でオファーされ、平均レートは0.003%、按分レートは▲0.002%とともに前回より上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
5/23 (月)	27,001.52	0.235	127.76	△ 0.021	△ 0.106	5,532,600
5/24 (火)	26,748.14	0.230	127.87	△ 0.020	△ 0.105	5,532,700
5/25 (水)	26,677.80	0.205	126.97	△ 0.020	△ 0.106	5,539,800
5/26 (木)	26,604.84	0.230	127.48	△ 0.019	△ 0.101	5,567,300
5/27 (金)	26,781.68	0.225	127.01	△ 0.021	△ 0.092	5,500,000

来週（5月30日から6月3日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/30 (月)					New York祝日(Memorial Day)
5/31 (火)	4月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 4月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 4月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 4月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 4月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 5月の消費動向調査(内閣府 14:00)	2Y 28,000億円 6/1発行			3月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 5月のシカゴPM景況感指数 5月の米CB消費者信頼感指数 5月のユーロ圏消費者物価指数速報値
6/1 (水)	1-3月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)				米ペーリュブック 4月の米建設支出 5月のISM 製造業景況指数
6/2 (木)	札幌市金融経済懇談会において安達審議委員講演 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 5月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 27,000億円 6/3発行	交付税借入 13,000億円 6/10入		4月の米製造業新規受注・出荷・在庫
6/3 (金)	6月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB3M 59,000億円 6/6発行			5月の米雇用統計 5月のISM 非製造業景況指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/30 (月)	400	▲ 19,800	▲ 19,400	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 400 ▲ 100 1,400		900	▲ 18,500	TB3M発行▲59000償還41000
5/31 (火)	1,100	2,200	3,300	CP買入		4,000	4,000	7,300	交付税借入▲13000償還11000
6/1 (水)	1,000	▲ 25,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	機関貸付回収・税揚げ前倒し 2Y発行▲28000償還6500
6/2 (木)	0	▲ 59,000	▲ 59,000				0	▲ 59,000	普通交付税・年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 交付税借入▲13000期日11000
6/3 (木)	1,000	▲ 20,300	▲ 19,300	成長基盤	▲ 5,200		▲ 5,200	▲ 24,500	10Y発行▲27000
週間合計	3,500	▲ 121,900	▲ 118,400	—	▲ 4,300	4,000	▲ 300	▲ 118,700	

5/30は日銀予想、5/31以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き地銀業態を中心とした調達が続くと思われる。月末初を挟む週となり、ターム物を含め動向が注目される。債券レポ市場のGCT/Nは、積み期後半に向けての資金ニーズが注目される。短国市場は、6月3日に3M物の入札実施が予定されている。5月31日に実施が予想される短国買入オペのオファー額も注目される。CP市場は、月初及び5日を挟む発行集中日が予定されている。主要なイベントは、海外で5月31日に5月のユーロ圏消費者物価指数速報値、6月3日に米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入